

社説

中国の実質的関与を促したい

対「北」圧力強化

北朝鮮の核・ミサイルによる挑発行為の抑止には、米国の軍事的な圧力に加え、中国の実質的な関与が欠かせない。

トランプ米政権が原子力空母「カールビンソン」を朝鮮半島近海に派遣した。

艦載機約90機を擁するカールビンソンは、伴走するミサイル駆逐艦とともに圧倒的な打撃力を有する。化学兵器の使用が疑われるシリアのアサド政権を攻撃した直後の派遣は、軍事行動も辞さない姿勢を北朝鮮に示す狙いがある。

オバマ前政権の「戦略的忍耐」政策は、北朝鮮への圧力を欠いたため、十分に機能しなかった。これを転換したことは、北朝鮮への一定の牽制効果につながろう。

先進7か国(G7)外相会合は、北朝鮮の核実験・ミサイル発射を「新たな段階の挑戦」と位置付ける共同声明を採択した。

G7が北朝鮮に関する現状認識を共有したことは、国際社会の対北朝鮮包囲網を強化するうえで、重要な一歩となる。

より大切なのは、この包囲網に中国を確実に組み込むことだ。

岸田外相はティラーソン米国防長官との会談で、中国に対し、さらに大きな役割を果たすよう働きかけることで一致した。

中国は、原油供給や貿易、金融取引の制限など、様々かつ有力な北朝鮮制裁の手段を持つ。米中首脳会談では、北朝鮮への圧力強化に後ろ向きだったが、国際社会は中国に具体的な行動を粘り強く促すことが求められる。



すことが求められる。

無論、米国の軍事行動は、日韓両国にとっても、北朝鮮の報復攻撃など大きなリスクを伴う。日米韓3か国が十分に意見交換し、効果的な戦略を練る必要がある。

北朝鮮外務省は、米空母派遣について、「我々に手出しする者に最も強硬に立ち向かう」と、核兵器開発継続の方針を喧伝した。

核・ミサイル分野で協力関係にあった友好国のシリアが攻撃されたのは衝撃だっただろう。

北朝鮮は従来、米国の武力行使

はないと見越して軍事挑発を繰り返してきた。こうした無謀な振る舞いを続けるつもりなのか。

朝鮮労働党の金正恩委員長は11日、最高指導者就任から5年を迎えた。今月は、金日成主席の生誕105年や軍創建記念日という重要日程を控える。

懸念されるのは、若くて経験に乏しい金委員長が、米国の圧力に反発し、暴走することである。核実験や新型長距離弾道ミサイルの発射実験などの愚挙に出ても、何も得るものはない。

対共産協力が招く保守の異議

長島氏民進離党

結党からわずか1年余で、現職国会議員らが党を見限った。連舩代表にとって深刻な事態だ。

民進党の長島昭久・元防衛副大臣が離党届を提出した。党執行部が進める共産党との選挙協力が理由だ。

「共産党は国家観も目指すべき社会像も著しく異なり、国民の理解を得られない」と強調した。

政権選択選挙の衆院選での連携は本来、基本政策の一致が前提となる。民共の「野合」に対する長島氏の強い懸念は理解できる。

長島氏は日米同盟を重視する保

守系の論客だ。民進、共産両党の安全保障関連法の廃止要求を「現実的とは思えない1点で折り合いをつけよう」とも、政権を担った途端に破綻する」と批判した。

保守系議員は「共産党票欲しさ」に、妥協を重ねている」と訴えてきた。こうした指摘に執行部が真剣に耳を傾けなかったことが今の状況を招いたのは明らかだ。

党勢低迷が続く中、7月の東京都議選に向けて、党公認候補36人中7人が離党届を提出した。うち4人は、小池百合子知事が事実上率いる地域政党「都民ファーストの会」の公認を得た。更なる「離党ドミノ」も取り沙汰される。

疑問なのは、野田幹事長が長島氏の除籍処分を表明したことだ。「野党連携は3月の党大会で認められた。なぜ離党するのか、納得がいかない」と述べた。

衆院比例東京選出の長島氏は小池氏に接近する可能性にも言及した。民進党都連は、小池都政を支持し、都議選後の連携を模索して

いる。長島氏との関係を完全に断つことが果たして得策なのか。

民進党は最近、共産党への配慮か、安全保障政策や憲法改正の議論に及び腰の姿勢が目立つ。野党第1党として物足りない。

今月上旬の共産、自由、社民3党との協議で、衆院選に向けた共通政策のたたき台をまとめた。北朝鮮の核・ミサイルの脅威が高まっているのに、安保関連法の「白紙撤回」を唱えるだけで、防衛力の強化には言及がない。

細野豪志代表代行が中央公論の5月号で、教育無償化を柱とする憲法改正私案を発表したが、連舩野田両氏は「教育無償化に改憲は不要だ」などと冷ややかに。

私案は、民進党が「提案」路線を封印し、「抵抗」路線に進むことへの危機感の表れと言える。

執行部が健全な議論を黙殺するようでは、保守系などの一層の離反は避けられまい。共産党との協力を強めることの代償の大きさを冷静に認識する必要がある。